

●全体

一般選抜（個別テスト）では、本学のアドミSSION・ポリシーに基づき、入学後の各学科での学びにつながる基礎学力である「知識・技能」と、問題を多角的にとらえて、適切に判断し表現することができる「思考力・判断力・表現力等の能力」を重視した問題を出題している。

2025 年度の各学部における各科目のそれぞれの出題意図は以下の通りである。

法学部、経営学部、健康栄養学部、スポーツ科学部

●「国語（近代以降の文章のみ）」

本科目において、「知識・技能」については主に漢字の知識や文脈に沿った語句の運用力等を問う問題を出題し、また「思考力・判断力・表現力」については文章の読解力と論理的な文章表現力を問う問題を出題した。入学する学部は様々であっても、大学ではそれぞれの専門分野の文献や資料を読み解いていくことになる。そのため国語の学力試験では、そのような専門的な文献や資料を読み解くための力が身についているかどうかをはかる必要がある。したがって高等学校卒業までに、漢字や語句の知識やそれらの運用力、またさまざまな文章を読み解く力を身につけなければならない。

出題範囲は、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）「現代の国語」「言語文化」の範囲とし、本学では論理的な文章読解力と文章表現力を重視しているため、「現代の国語」「言語文化」の教科書の内容と同程度の難易度の文章をもとに「論理的な文章」を題材とし、両科目の教科書で学んだ知識と能力を用いて正答を導き出すことができる程度の問題を出題した。

●「英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ」

本科目では、今日の社会問題や多様な出来事に関する文章を適正に理解するためや、同意・反意などの簡潔な英文や英会話の完成するための語彙・文法・表現・言語の機能などの知識と運用力を習得できているか、またその背景にある多文化的な知識の有無を測定することで、総合的な英語運用能力を評価する問題を出題した。また、英語の慣用句等の表現の理解とそのことについて日本語での表現が適正か否かを測定することで、英語表現の知識の有無と、言語間の表現力を評価する問題も出題した。

●「数学Ⅰ、数学 A」

本科目では、高校数学の数学Ⅰ・数学 A の範囲内で、数学の基礎学力が身についているかを判定することを目的としている。一般的な教科書に基づく基礎的な知識を前提とし、計算力や論理的思考力を問う問題を出題した。対象となる範囲は、数学Ⅰの「数と式」「二次関数」「図形と計量」「データの分析」、および数学 A の「場合の数と確率」「図形の性質」の 6 分野である。

各分野の出題数は以下である。

- ・①「数と式」：小問 5 題
- ・②「二次関数」：小問 5 題
- ・③「図形と計量」および「図形の性質」：小問 4 題
- ・④「データの分析」：小問 3 題
- ・⑤「場合の数と確率」：小問 3 題

合計 20 題 を出題し、各問題は、基礎的な内容の理解力や計算力を問うものに加え、応用力を試す問題で構成されている。

●「歴史総合・日本史探究」

【一般的方針】

2025 年度の「歴史総合・日本史探究」の問題は大問 1、2、3 で構成され、全体で 100 点満点とする。

【歴史総合部分】

「歴史総合・日本史探究」の大問1は、歴史総合型の問題であり、近現代史を対象とし、日本や世界の出来事やその背景、その後の影響、日本と世界の関わりなどについて出題した。また、大問1は、思考力・判断力を問う問題であり、提示された資料等を手がかりとして、学んだ知識と組み合わせて解答を導く問題、歴史の流れの理解や影響関係を前提として解答を考える問題を出題した。

【日本史探究部分】

「歴史総合・日本史探究」の大問2・3は、日本史探究に相当する問題であり、入学後に必要な継続的に学習を行うことのできる「知識・技能」および「思考力・判断力」を評価するため、日本の原始・古代から近代に至るまでの法や政治、経済、文化、国際関係に関する幅広い日本史の基礎的な知識と理解を測ることとする。そのため、高等学校の教科書の記述内を出題範囲としながら、教科書等で掲載されていない資料に基づいて高校の授業で学んだ内容の理解度を測る出題がなされることもある。

2025年度は、日本の原始・古代、中世、近世、近代における法と政治、経済、文化、国際関係に関して、大問2はまとまった長文を読み、それに関連する用語や基礎知識の理解を問う問題を出題し、大問3はある範囲のテーマに関して、一問一答形式で基礎用語や基本知識の理解を問う問題を出題した。

●「歴史総合・世界史探究」

【一般的方針】

2025年度の「歴史総合・世界史探究」の問題は大問1、2、3で構成され、全体で100点満点とする。

【歴史総合部分】

「歴史総合・世界史探究」の大問1は、歴史総合型の問題であり、近現代史を対象とし、日本や世界の出来事やその背景、その後の影響、日本と世界の関わりなどについて出題した。また、大問1は、思考力・判断力を問う問題であり、提示された資料等を手がかりとして、学んだ知識と組み合わせて解答を導く問題、歴史の流れの理解や影響関係を前提として解答を考える問題を出題した。

【世界史探究部分】

「歴史総合・世界史探究」の大問2・3は世界史探究を基礎とした問題である。大問2では、課題文を示して空所を補充することで、特定テーマの概括的な理解を確認しながら、理解を促すようにしている。また、課題文の下線部についてより深い理解を確認する問題を出題した。なお、出題テーマとしては、現代社会への理解を深めるという観点から、近現代社会の起点となった大交流時代、及び東西ヨーロッパ社会の分裂の起点となるフランク王国の成立について出題した。また、国際社会において影響力が高まる中国について、皇帝独裁体制が成立し、周辺諸民族との関わりがクローズアップされる宋朝から出題した。大問3は、一問一答形式をとることにより、基礎的な知識を確認している。出題テーマは、現代社会の基盤となっている中世から近代のヨーロッパの政治・経済・文化などから出題した。

●「公共、政治・経済」

本科目では、日本や世界を取り巻く政治や法などの社会の仕組みや経済に関する基本的理解の有無や社会問題に取り組むための思考力・判断力を評価する。いずれの問題も高校生が教科書をベースとして通常の学習をした場合に解答が可能な問題を基本とするが、一部教科書に記載のない時事問題を出題する場合がある。ただし、時事問題を出題する場合には、近時ニュースになった話題に関する問題など、現代社会において一般的に認知されている問題とする。

2025 年度の問題は大問 1、2、3 で構成され、全体で 100 点満点とする。大問 1 は、思考力・判断力を問う問題であり、提示された資料等を手がかりとして、学んだ知識と組み合わせて解答を導く問題を出題した。大問 2 は、政治や法、経済についてのテーマに関するまとまった長文を読み、それに関連する用語や基礎知識、社会問題の理解を問う問題を出題した。大問 3 は、ある範囲のテーマに関して、一問一答形式でその基礎用語や基本知識の理解を問う問題を出題した。

●化学基礎

入学後に各学部の講義を理解するために必要な基礎的な学力を有するものを選抜する。出題は、高等学校の化学基礎で学習する内容の中で基礎的な内容を中心とし、稀に発展的内容も含まれており、実験内容や実験結果を読み解く問題も出題する。これは、科学的な視点から考えることができるか、論理的な思考ができるかを判断することを目的としている。

出題範囲は、化学基礎の内容で、①化学と人間生活（化学と物質）、②物質の構成（物質の構成粒子、物質と化学結合）、③物質の変化とその利用（物質と化学反応式、化学反応、化学が拓く世界）の 3 つの範囲である。

●生物基礎

入学後に各学部の講義を理解するために必要な基礎的な学力を有するものを選抜する。出題は、高等学校の生物基礎で学習する内容の中で基礎的な内容を中心とし、稀に発展的内容も含まれている。また、与えられた資料やデータから自ら思考・解析する能力を有するものを選抜するために実験結果を示した表やグラフを読み解く問題を出題している。これは、科学的な視点から考えることができるか、論理的な思考ができるかを判断することを目的としている。

出題範囲は、生物基礎の内容で、①生物と遺伝子（生物の特徴、遺伝子とその働き）、②生物の体内環境の維持（体内環境の維持の仕組み、免疫）、③生物の多様性と生態系（植生の多様性と分布、生態系とその保全）の 3 つの範囲である。

国際リベラルアーツ学部

●英語学力試験 I

「英語学力試験 I」は、国際社会や日本の課題、社会的な現象、及び個人的価値観などに関する英語の設問を読み、自分の考えを 600 字以上の日本語で述べる試験である。2025 年度は、「インターネットが普及した時代における大学教育の意義」について出題し、英文読解力、日本語の文章構成力、語彙・表現の適切性、批判的な思考力等を評価した。

●英語学力試験 II

「英語学力試験 II」は、国際社会や日本の課題、社会的な現象、及び個人的な価値観などに関する英語の設問を読み、自分の考えを 250 語以上の英語で述べる試験である。2025 年度は、「翻訳ツールの精度が向上するなか、外国語を学ぶ意義についてどう考えるか」という趣旨の問題を出題し、英文読解力、英語の文章構成力、文法、語彙・表現の適切性、批判的な思考力等を評価した。